5807

日本舞踊「振り帳」の IT 援用記述と狂言「小舞」への適応に関する研究

A Study on an Application of “Japanese Dance IT *Furicho*” to *Komai* of *Kyogen*

CS36 廣中亜弓　CS22 新保瑛規
指導教員 小出由起夫　市村 洋

1. はじめに

狂言[1][2]は，舞も語りも口伝のみで，記録方式を伝統的にとらない最も歴史のある日本伝統芸能の一つである．狂言より歴史は浅いが，日本伝統芸能には日本舞踊もあり[3]，稽古には口伝のみではなく記録を取る流派も存在する．その多くは稽古内容を「振り帳」という紙媒体で記録するという方式がとられている[4]．振り帳は，習い手(弟子)の自主的な稽古時の記憶補助としてのみ使用される．弟子は自分の記憶を頼りに，振りを手書きで紙に書き記憶していく．この作業は，書き方を覚えることも容易ではなく，慣れた人間でも非常に手間と時間がかかるとされている．

本研究では，振り帳記述を IT 化して習い手の負担を軽減させることを目的としている．さらに，振り帳の機能を狂言の「基本所作(動き)の小舞」に適応させ，その有効性を検証する．なお，本研究は日本舞踊門弟と共同研究で行う．

2. 研究のアプローチ

2．1 振り帳の様式と設計指針

振り帳は「振りの図解」および「歌詞」から構成されており，これを電子化するための設計指針を次のように設定する．

・記述時間の大幅な短縮
・操作性の簡易化と表示画面の見易さ

2．2 設計概要

2．2．1 描画方式

メインとなる振り部分の描画方法は，日本舞踊における振りの型はある程度パターン化できるという見解より，基本的な部分の描画は頭部・上半身（腕）・下半身(足)といった大まかなパーツごとに画像を用意し，その中から選択する方式である．振りの描画の際によく使用される○×などの記号や小道具（扇子など）は，ペイントツールにおけるスタンプやペンツールのように,書き手がパレット内に自由に描画できる．

2．2．2 歌詞の記述

歌詞部分の記述は，振りのタイミングを決定する重要な役割を持っている．そのため振りごとではなく 1 列ごとの編集とし，空白文字などで柔軟に間合いをとれるようにする．

2．2．3 編集と保存

振りと歌詞を 1 列 5 コマでセットとし，列ごとに編集を行う．データは演目（曲）一曲単位でまとめられ，振りの型を記したテキストファイルと，描画した部分の画像とに分けて保存される．

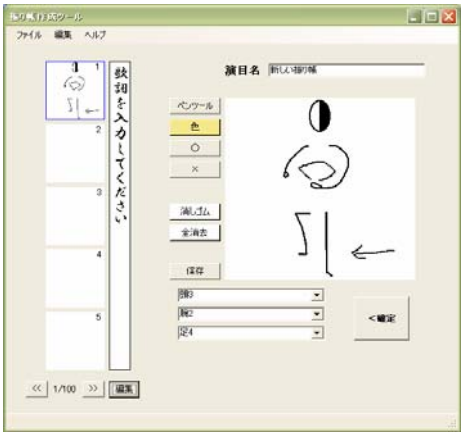

図 1 振り帳記述ツールのユーザインタフェース

3. 評価方法

実際に振り帳を用いて稽古されている日本舞踊門弟に実際に使用してもらい，システムに対する意見をうかがい，振り帳記述の時間の短縮性，使い勝手の有無，実用化有無等の評価，検証を行う．併せて，口伝稽古が伝統である狂言の基本所作である小舞の稽古の可能性を，狂言師に試用してもらい意見をうかがう．狂言は日本舞踊と異なる部分も多いため，適用の際には機能の改良や新しく必要な機能の検証等も行う予定である．

4. まとめ

日本舞踊門弟から話をうかがい，振り帳の使用方法や描画する際に重要な事項，基本の振りのパターンなどを学習した．それに基づき，振り帳の IT 援用ツールを設計・実装を行った．今後は評価結果に基づき，システムの改良を進める．また同研究室内のモーションキャプチャ活用の研究と連動し，より効率的な稽古支援システムの開発を目指す．

文献

[1]善竹十郎:”狂言の型と技”，形の文化誌[9] 芸道の形(2002.08).
[2]善竹富太郎，大二郎十郎:”大蔵流狂言師善竹富太郎の狂言道場”，セルリアンタワー能楽堂(2007.08).
[3]叶 一貴，叶 一誠ほか:”叶流舞踏会 連獅子ほか”，日本橋公会堂(2007.07).
[4]花柳千代:”日本舞踊の基礎―実技”，東京書籍(1981.01).